

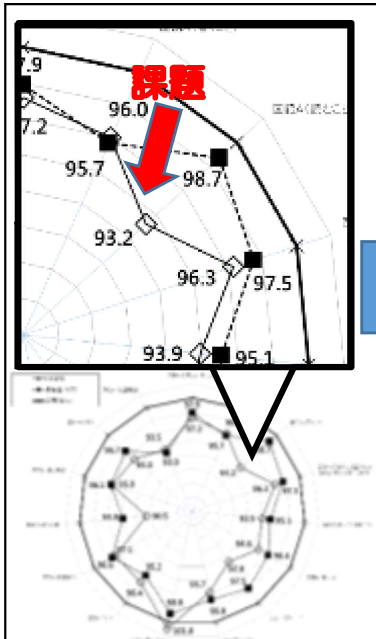
# 調査問題を活用し授業改善を図りましょう！〈C小学校の取組〉

## ポイント

- 全教職員で調査問題を実際に解き、つまずきを分析して授業改善を図っています。
- 授業改善の成果を検証し、確実な定着を図っています。

## 1 調査結果から定着が不十分な領域を明確にしました。

### 分析ツール



### 課題の共有

- 本校の児童は、国語の「読むこと」の領域に課題が見られることがわかりました。

### 学級の実態

- 「読むこと」に関する学級の課題を共有しました。
  - ・複数の文章を関連付けて読むことが苦手
  - ・登場人物の行動や心情を描写と結び付けるのが苦手
  - ・他教科でも長い文章を読むのが苦手
  - ・目的に合った情報を取り出すのが苦手

### 問題の確認

- 着目した領域「読むこと」について「全国学力・学習状況調査解説資料」等を出題された問題を確認しました。

#### 国語 A6

『おばあさんの飛行機』を読んで、登場人物の人物像を説明するために、根拠となる表現として適切なものを選択する。

	〈正答率〉	〈無解答率〉
全国	63.9%	1.4%
本校	60.8%	5.2%

- ・A6の問題は、正答率が全国よりも低いだけでなく、無解答率も高いことに着目する必要がある。

## 2 全教員で実際に問題を解き、児童のつまずきを分析しました。

### 全教職員で問題を解く

- 全教職員で、実際に問題を解いてみて、感想を交流しました。
  - ・普段からこういう授業をしていないと解答に迷う。
  - ・問題文が長くて、漠然と読んでいくと時間がかかる。



### つまずきの分析

- 「報告書」を参考にしながら、解答類型から、児童の間違いやつまずきを分析しました。
  - ・根拠となる表現を一つは見つけられる。
  - ・複数の表現を比較して適切なものを選択することが課題である。

### 指導事項の明確化

- 学年ごとに必ず定着させる指導事項を明確にしました。

#### 第1学年及び第2学年

ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。

#### 第3学年及び第4学年

ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。

#### 第5学年及び第6学年

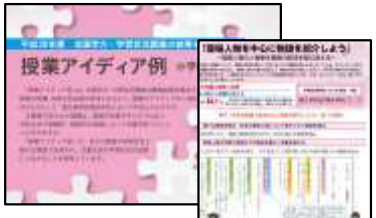
エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。

### 3 授業アイデア例等を参考に授業改善を行いました。

#### 重点指導単元の決定

- 明確になった指導事項をもとに、全校で授業づくりを行うことにしました。
  - ・各学年の教科書やドリル等を持ち寄って、関連する学習内容が掲載されたページに付箋紙を貼るなどして、重点指導単元を決定しました。

- 「授業アイデア例」を参考に授業づくりを行いました。



#### 授業づくりの実際

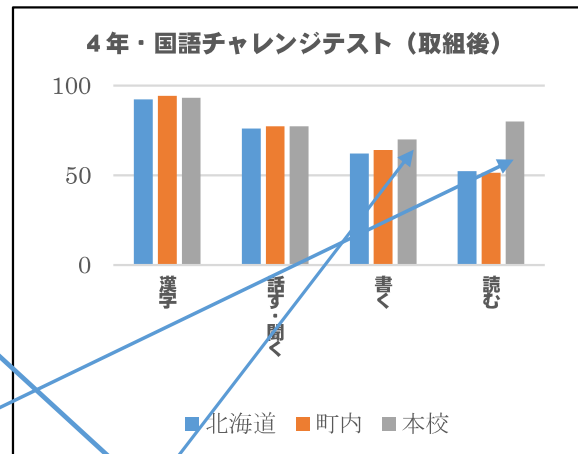
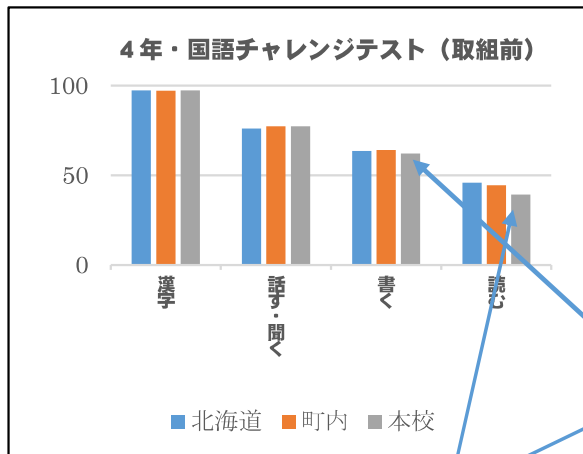
##### 好きな登場人物を中心に物語を紹介しよう（10時間）

1次	様々な物語を読み、好きな登場人物について紹介したい物語を選ぶ。	好きな登場人物を選んだり、場面の展開を確かめたりできるようにする。
2次	共通教材や自分の選んだ物語の登場人物の行動や会話などの叙述を基に人物像を捉える。	複数の叙述を関係付けて人物像を捉えられるよう、交流を工夫する。
3次	選んだ本の好きな登場人物の人物像をまとめ、紹介し合う。	学習を振り返ったり、友達の選んだ本で確かめたりさせる。

- 学校全体で取組期間と検証方法、指導の方向性を確認しました。
  - ・取組前と1か月間の取組後にチャレンジテストで定着状況を把握することにしました。
  - ・つまずきが見られる場合は、下学年の既習事項を想起させる場を設けることにしました。
  - ・考えの交流の仕方について工夫することにしました。

### 4 取組の成果を過去の同一問題や類似問題、チャレンジテスト等で確認しました。

#### 定着状況の確認



- 第4学年では、複数の叙述を関係付けながら登場人物の性格等について読むことを意識して指導した結果、チャレンジテストの類似問題では、正答率が8割以上になった。

- 「書くこと」においては、正答率は高まったものの、無解答の児童が1割程度いたため、自分の考えを目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くことができるような学習活動を工夫する必要がある。

- 1か月の取組の成果と課題は、全教職員はもとより児童や保護者と共有しました。
- 「書くこと」については、各教科等でも意識するようし、1か月後に、ノートの記事に着目して取組の成果と課題を検証することにしました。